

## ポンド、BOE 利上げ時期の見極め

- ◆ポンド、利上げ時期をめぐり経済指標や要人発言を見極める
- ◆ポンド、労働力不足の深刻さによる経済活動への悪影響に警戒
- ◆加ドル、ドル高が上値圧迫も原油高や加中銀のタカ派姿勢が下支え

### 予想レンジ

ポンド円 149.00-153.50 円

加ドル円 85.50-89.50 円

### 10月4日週の展望

9月23日のイングランド銀行（BOE）金融政策会合を受けて、市場では早期利上げ観測が高まっている。短期金融市場では来年の2月に0.15%の利上げを実施し、11月までにもう1回の利上げが実施され、政策金利は0.5%まで引き上げられると織り込まれている。一部では年内にも利上げに踏み切るとの見方も出ており、11月4日、12月16日の会合に向けて英経済指標や金融政策委員会（MPC）メンバーの発言を見極める展開となる。ドル高でポンドの上値が重くなっているが、BOE政策期待が下支えとなりそうだ。

ベイリー-BOE 総裁は今週の講演で、自身を含む MPC メンバーは「利上げの根拠が強まっているとの見解を共有している」と述べた。また、インフレが年末までに一段と上昇する可能性を繰り返し言及し、「最近では利上げの根拠が強まったように見える」との考えを示した。「年内に賃金の伸びは4%前後、インフレ率は4%を超える可能性が高い」と述べ、インフレ圧力に対する金融政策としての対応は「量的緩和（QE）ではなく金利を使うべき」との見方を示した。早すぎる行動による景気回復への悪影響を懸念し、慎重な姿勢を崩していないものの、BOEのスタンスが早急に変化し得ることを示唆した。

英4-6月期GDP改定値は前期比+5.5%と速報値の+4.8%から上方修正された。経済活動の本格的な再開で2四半期ぶりのプラスとなった。ただ、EU離脱後の移民制限やコロナの影響でトラック運転手や食品加工業者の労働力不足が深刻化している。サプライチェーンのボトルネックが経済見通しに不安を与える可能性がある。

加ドルは方向感に欠ける動きが継続か。9月21-22日の米連邦公開市場委員会（FOMC）後にドル高の流れが強まっていることが加ドルの重しとなる一方で、原油高が支えとなる。コロナに絡んだ規制が世界的に緩和されつつあり、エネルギー需要の拡大期待で原油の先高感も根強い。また、カナダ中銀（BOC）はタカ派姿勢を維持しており、押し目では買いが入りやすい。9月の総選挙でトルドー首相が率いる自由党は過半数には届かなかったが、トルドー政権は継続することになり、景気の追加支援が期待されることも加ドルの支援材料となる。来週は9月雇用データの発表が予定されている。8月の失業率は7.1%とパンデミック前の水準を回復している。

### 9月27日週の回顧

FOMCの結果公表を受けて早期の引き締め期待が高まり、今週も米長期金利が大幅に上昇した。米金利の上昇に伴い、ドルが全面高。ポンドドルは1.34ドル前半まで昨年12月以来の安値を更新した。加ドルは原油高が支えとなるもドル高の流れを受けてドル/加ドルは1.27加ドル後半まで加ドル安となった。中国恒大リスクを手がかりとした動きは一巡したが、ポンド円はポンドドルの下げにつられ149円後半まで売りに押された。加ドルは8月上旬以来の高値水準となる88円前半まで上昇し、87円台を中心に底堅い動きとなった。（了）